

一一、海綿養殖試験

一、趣旨

本試験ハ前年度來ヨリノ繼續試験ニシテ本場創立以來ノ試験事業タル海綿養殖ノ經過ニ付テハ前回報告書中附錄トシテ詳記セルタゞ此處ニハ單ニ本年度ニ於ケル試験ノ経過ヲ報告スルニ止メントス本場養殖海綿ハ昨年漸ク其ノ販賣ヲ認メラレ本縣最初ノ國產品トシテ中央ニ其ノ販路ヲ開クニ至リタルモ商品上未ダ不充分ノ點アルヲ以テ今回ハ豫備試験ニテ好成績ヲ得タル懸垂ノ方法ヲ採用シ専ラ優良品生産ノ増加ニ邁進シ以テ極力販路ノ開拓ト移入防遏ノ目的ニテ進マントセリ

二、試験施行期日

昭和七年六月中八日間

三、試験場所

島尻郡具志川村字島島地先

四、取揚ゲタルセメント盤ノ數量

三角盤千二百四十五枚丸盤八百六十九枚剝離セル海綿ノ數量三千二百八十個

五、試験ノ方法

前年度ニ於テ施行セル懸垂式法ニ依ル海綿ノ成長度ハ頗ル良好ニシテ滿一ヶ年ニシテ販賣ニ適當ナル大サニ達シ其ノ成長極メテ速ナル事ヲ確知シタルヲ以テ前記ノ如ク本年度ハ從來ノ「セメント」盤ヲ使用セズ専ラ懸垂式ノ方法ニ依リ養殖セリ養殖場ハ前年度ノ箇所ヨリ稍西方ニ面シ水深ハ干潮時三尋ノ深所ニシテ水色極メテ清澄ノ場所五百坪ヲ選定シ試験セリ懸垂ノ方法ハ直徑二寸ノ松杭ヲ一間ノ間隔ヲ以テ縦二列ニ柵ヲ設ケ此柵間ニ徑五分ノ棕梠繩ヲ張リ渡シ之レニ六、七粍立方大ニ截断セル海綿ノ切片ヲ「アルミニウム」綿ニテ五個宛連鎖狀ニ連結シ都合一千五百三十五個懸垂養殖セリ其後一週

間ニシテ截断面ハ復生シ漸次球形ニ成長シ漸ク好調子ニ進ミ次年度ニ於テハ試賣ノ結果ヲ知ラント欲セルモ不幸ニシテ本年十一月大暴風ノ爲殆ド破壊流失シ手段ノ講シ様ナク遺憾ナガラ豫期ノ成績ヲ見ル事ヲ得サリシモ一部ノモノニ付調査スルニ極メテ成長迅速ニシテ將來益々有望ナルヲ確メタリ

六、養殖海綿ノ試賣

本年度ハセメント盤結着ノ養殖海綿三千二百八十個ヲ取揚ゲ之レヲ漂白シテ東京日本橋某商店ニ相當ノ値ヲ以テ賣却セシニ品質優良ナル事ヲ認メラレ引續キ取引希望ノ通知ニ接シ愈々沖繩縣產海綿トシテ外國產ト對抗ノ見込立チ得ルニ至レリ尙前記縣垂ノ方法ニ依ル時ハ從來ノモノニ比シ一層品質ヲ向上シ得ラレルヲ以テ今後ハ適地ニ移植ヲ試ミ以テ生産ノ増大ヲ期セントスルモノナリ

七、久米島產海綿ノ種類

海綿動物ノ査定ハ極メテ困難トセラレ殊ニ沐浴海綿ハ他ノモノト異リ商業上ノ名稱ガ學名トナリ且ツ種類甚ダ多キヲ以テ其ノ査定ハ一層難事ニシテ本縣產海總類中宮古島產ノモノハ既ニ東京帝國大學雨宮博士ノ査定ニ依リ其ノ種名沐浴海綿ノ一種 *Euspongia irregularis* Ldg. ナルモノト判明セルモ一方本島養殖地タル久米島沿岸ニ棲息セルモノニ付テハ今日迄明確ナル種屬判明セザリシモ今回東北帝大朴澤博士ノ鑑定ニ依リ左ノ如ク明瞭トナシワ

Phylum porifera cl. ceratosa

Tam spongidae

眞正海綿科

Subfam Eusponginae

Gen., Euspongia

沐浴海綿屬

Euspongia officinalis Rinne

本年試験ノ結果水温三十度、氣温二十九度、比重一〇、〇〇

八、養殖場水温比重

六月十六日午前九時半 干 潮

同 日午后四時 滿 潮

六月十七日午前九時 干 潮

六月十七日午後四時 滿 潮

六月十八日午前九時 滿 潮

同 日午後三時 滿 潮

六月十九日午前九時 滿 潮

同 日午後三時 干 潮

氣温三十度水温二十八度比重一〇、〇〇
氣温二十九度水温二十九度比重一〇、〇〇
氣温二八、五度水温二九度比重淡水過剩ノ爲測定不能
氣温二八度水温三〇、五度比重測定不能

氣温三〇度水温二九、三度比重一〇、一〇
氣温二九、五度水温三〇、七度比重一〇、一〇

氣温二九度水温二九、三度比重二一、四〇

氣温二九、五度水温三十二度比重測定不能

二、牡蠣移植試験

本試験ノ前年度ヨリノ繼續試験ニシテ引續キ同様ノ箇所ニ縣垂シ以テ之レガ經濟ヲ知ラントスルモノナリ

三、懸垂期日 昭和八年二月下旬

四、試験場所 國頭郡名護町許田灣（前年度ト同ジ）

五、種牡蠣

宮城縣萬石浦產種牡蠣五箱分 一月廿七日東京ローヤル養蠣會社注文ノ處二月十七日朝入港ノ臺中丸甲板積トナシ